

留学から見えた、「世界」と「私」

World Journey

ワールド・ジャーニー vol.2 アルゼンチン編



大らかなラテン気質のなかで育まれた「タフな精神」。



"Mente fuerte" adquirida en el generoso carácter latino.

Charlando tranquilamente en el campus con mate en la mano.

キャンパスでは、マテ茶を片手にのんびりおしゃべり。

緑豊かなキャンパスは、のんびりと時間が流れていきます。話好きのラテン系の人は、授業のない時は、芝生に座っておしゃべりに夢中。そんなリラックスタイムに飲むのは、マテ茶です。ビタミンなどの栄養素を多く含むマテ茶は、彼らの元気の秘訣かも。



En los recuerdos del viaje por los países de América del Sur, la naturaleza magnífica de Chile me abrumó.

南米の国を旅した思い出、壮大な自然に圧倒されたチリ。

留学中は南米を旅行しました。いつか住んでみたいほど好きになったのが、チリ。なかでも、アタカマ砂漠の壮大なスケールの自然は、今も鮮明に記憶に残っています。自転車で砂漠を走りまわって見た夕日が思い出です。



Me he convertido en un devorador de la carne de vaca que no se puede comer en Japón por su volumen y sabor.

日本では食べられないボリュームと味わいの牛肉がやみつきに。

アルゼンチンの家庭で、週末の恒例メニューが、asado(焼いた牛肉)。赤身の牛肉を分厚く切って、肉そのものの味わいを楽しみます。日本ではなかなか食べられない味がやみつきに。ちなみに、アルゼンチンでは牛肉よりチキンのほうが贅沢なんですよ。



アルゼンチンの大親友 "マティウス"

El gran amigo íntimo que he tenido en Argentina con quien hacía intercambio de clases de lengua.

ともに語学を教え合う、アルゼンチンでできた大親友。

日本のサブカルチャーに興味を持ち、日本語を学ぶマティウス。彼は、私のプライベートでのスペイン語の先生であり、アルゼンチンでの大親友です。私も彼に日本語をレクチャーし、彼の自宅にもよく遊びに行きました。



語学力はもちろん、内面が大きく成長した留学生活。

好き嫌いがはっきりしていて、自分に素直に行動するアルゼンチン人。暮らせば暮らすほど、そんな国民性に魅かれました。日本人が少ない街にあえて住むことで成長した点は、語学力はもちろん、精神的にタフになったこと。アルゼンチンは、日本のようにインフラが整備されておらず、バスのストライキなどは日常茶飯事。トラブルが起こっても「何とかなる」の気持ちで臨み、ひとつ乗り越える度に自信も生まれました。また海外の大学では、授業中発言しなければ、参加していないことと同じ。自分の意見を持つことの大切さも留学生活で学んだことのひとつです。南米への留学で、私の内面は大きく変わりました。

言語学科 スペイン語専修4年(現ヨーロッパ言語学科 スペイン語専攻) 伊藤 周さん
アルゼンチン・プラスバスカル大学(認定留学) 3年次留学

Professor Voice | スペイン語を学ぶと、自分の可能性が広がります!

世界で4億人が話すスペイン語を「道具」に、広く世界を知り、行動しよう!

言語とは、まさに「道具」です。たとえばインターネットでスペイン語のサイトを見れば、今まで知らなかった世界を理解できます。そして、言葉を理解できたら世界はあっという間に近くなります。世界中で4億人が話すスペイン語は、スペインだけでなく、ラテンアメリカの多くの国々で話されています。またアメリカでは、大学の授業はもちろん、テレビや映画でもスペイン語が頻繁に使用されています。つまりスペイン語は、世界で、さらには仕事でも活かせる機会が

豊富なのです。スペイン語を学ぶことで、文化の差や価値観の違いも尊重でき、あなたの視野が広がるでしょう。とりわけ、大学時代にぜひ挑戦してほしいのが、海外留学です。日本にいと、家族に守られていることも多いものです。でも海外へ行けば、毎日が自分で選択し決断することの連続。人生が積極的になりますよ。語学を学ぶことは、楽しいこと。ぜひ京都産業大学で、楽しみながらスペイン語を学んで世界を広げてほしいと思います。

ヨーロッパ言語学科 スペイン語専攻 准教授 フェルナンデス コボ カルロス ピセンテ

